

幸世好緣

富山国際大学付属高校

二年 松田穂乃佳

「	幸	せ	と	は	何	だ	ら	う	？	」	と	ふ	と	思	う	瞬	間	が	
あ	り	ま	す	。	自	分	の	か	り	た	い	こ	と	が	叶	わ	な	い	時
自	分	の	将	来	の	イ	メ	ー	ジ	を	つ	か	め	な	い	時	。	私	は
こ	の	瞬	間	幸	せ	と	は	何	だ	ら	う	と	明	確	な	答	え	の	な
い	答	え	を	探	し	考	え	ま	す	。									
私	に	は	将	来	の	夢	が	あ	り	ま	す	。	そ	れ	は	十	人	で	
も	多	く	の	人	が	幸	せ	を	感	じ	ら	れ	る	社	会	を	構	築	す
る	こ	と	で	す	。	高	校	主	催	の	国	際	理	解	講	座	や	ク	ロ
ー	バ	ル	ス	タ	デ	ィ	ー	ス	の	授	業	を	通	し	て	、	パ	ラ	グ
ア	イ	ヤ	フ	ィ	リ	ビ	ン	な	ど	の	発	展	途	上	国	の	過	酷	な
貧	困	の	状	況	を	知	っ	た	こ	と	が	き	っ	か	け	で	す	。	子
ど	も	兵	や	児	童	労	働	、	ス	ト	リ	ー	ト	チ	ル	ド	レ	ン	な
ど	、	死	と	隣	り	合	わ	せ	の	劣	悪	な	生	活	環	境	に	置	か
れ	て	い	る	子	ど	も	達	が	た	く	さ	ん	い	る	こ	と	を	知	っ
た	時	と	て	モ	シ	ョ	ツ	ク	を	受	け	ま	し	た	。	こ	れ	を	
機	に	、	世	界	中	の	貧	し	い	地	域	の	人	々	を	救	う	こ	と
を	決	め	し	ま	し	た	。												
	あ	る	時	、	フ	ィ	リ	ビ	ン	で	ボ	ラ	ン	テ	ィ	ア	活	動	に
参	加	し	た	先	輩	が	、	フ	ィ	リ	ビ	ン	の	人	は	、	貧	し	い
暮	ら	し	の	中	で	も	表	情	に	突	顔	が	あ	り	、	と	て	も	活

き活きしていたのにとっても驚いたよ。逆に、私達も元氣を与えられたわ。と言っている。た。この言葉を聞いて、日本を含む先進国の人々は、発展途上国とは全く逆の豊かで便利な生活を送っているにも関わらず、幸せを感じている人は少ないように思いました。物が便利になればなるほど私たちの心の幸せは薄れていくのではないかと、本当に幸せに気付くべきなのは先進国の人ではないかと気付きました。となりました。

「幸せ」とは何なのかわからないまま、私は福島県で行われた介護ボランティアに参加しました。私は今までにボランティアをしたことはありませんでしたが、初めて経験することだったので、参加する前はどのようなことをするのだろうかと想像がつきませんでした。一緒にゲームをしたリ、ご飯を食べているうちに徐々に心が開けて仲良くなることになりました。

帰り際に一人のおばあちゃんが私の手を握って

て「帰らないで」。帰ったら私は一人になって
しまふ。あなたと話している時間は幸せだった。
た。と言われました。寄り添ってあげたい気
持ちや無力感などで私は複雑な気持ちになり
ました。しかし、おばあさんの「幸せだった」
た。という言葉は私の心の中に大きく残りま
した。私はいつの間にかおばあさんに「幸
せ」を届けることができたのです。おばあち
やんの言葉で私も幸せを感じることができま
した。「幸せ」とは何気ない日常の中でも生
まれる物だと思いました。
「人はいろいろな縁で多くの人と繋がって
いる。今まで出会った人との縁を大切にすべ
き」と恩師は言っていました。この言葉を聞
いた時はこの言葉の真意は分かりませんでした。
だが、福島のボランティアをきっかけにこの
言葉の真意を理解することができました。福
島で出会ったおばあさんとの縁は私に「幸
せ」とは何なのかという自分なりの答えを導
き出してくれました。「幸せ」とは相手に感

いてもううこと、自分が感じるものだと福島
のボランティアで強く思いました。幸せは一
人で感じるのではなく、相手と分け合って感
じるものだと思いました。「幸せは相手と
自分とハングアウトと私なりの答えを見つけ
ること」ができたと思います。私は福島のボラ
ンティアによつて今まで以上に人との縁を大
切にしようと思いました。私はボランティア
に興味があり、様々なボランティアに参加し
ています。発展途上国にボランティアに出向
いた方々との出会いも多く、それぞれの活動
で得た感想や情報を交換することで教養を身
に付けるだけでなく、人との絆を強めること
ができました。私はこれから世界中の様に
な人種の人々と関わり、将来の「多くの人
に幸せを感じてもらおう」という夢を実現したい
です。